

人体構造系Ⅱ

責任者	氏名	弦本敏行	内線	7021
	教室	解剖学第二(肉眼形態学)	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	18:00-19:00		

対象年次・学期	2年・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	人体構造系6.5単位の一部
英語名	Human Body Structure 2		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：解剖学実習は御遺体にメスを入れるという特殊な実習でもあるので、知的修得ばかりでなく「心の学習」の場でもあることを自覚、認識して臨まなくてはならない。人体構造系は「肉眼解剖学」の知識を習得する学問である。講義並びに実習を通して人体の諸構造を理解するための解剖学的知識を修得するとともに、解剖学以外の基礎医学、臨床医学、社会医学などを学ぶための基礎学力をも身につける。その際学ぶ解剖学用語は、一つの概念を表現するために約束された記号であり、かつ将来、臨床医学を学ぶ上で必須の公用語でもある。また、解剖学実習は、剖検した構造物を自分の目で観察し正確に記載してゆくという科学的学習態度の初歩を身につける機会としても位置づけられる。

到達目標：人体の肉眼解剖学的な種々の諸構造について、適切な解剖学用語を用いて具体的に説明できる。

2. 授業内容

解剖学実習を決められた手技に則って行う。

3. 教科書、参考書等（★は教科書、必携）

書名	著者	出版社	定価(税抜)
★グラント解剖学実習	新井良八 監訳	西村書店	4,800円
★ネッター解剖学アトラス	相磯貞和 訳	南江堂	10,000円
★グレイ解剖学 (for students)	塩田浩平 他訳	エルゼビア・ジャパン	10,000円
分担解剖学1 (総説・骨学・筋学)	小川鼎三、森 於菟他	金原出版	9,300円
分担解剖学2 (脈管学・神経系)	平沢 興 他	金原出版	10,600円
分担解剖学3 (感覚器学・内臓学)	小川鼎三 他	金原出版	8,600円

4. 成績評価の方法・基準

解剖学実習について、口答試験および筆答試験を行う。

- (1) 受験資格 原則として皆出席（無届欠席は失格）
- (2) 試験と評価 ○実習中に口答ないし筆答試験を行う
 - 本試験
 - 再試験
 再試験後、口頭試験等も併せて、総合的に評価する

※ 本試験、再試験とも無届欠席は失格とする。

5. 教員名

解剖学第二：弦本敏行、岡本圭史、分部哲秋、佐伯和信

6. 備考（解剖学実習事前学習等について）

- (1) 解剖学実習をプログラム通りに進行させるためには解剖内容の正確な理解が必要であり、十分なる予習を必要とする。
 - 1) 配布するプリントの一般的解剖手技を十分学習し、各構造物の剖出の仕方を実践

- できるようにしておく。
- 2) 実習プログラムに沿って予習しておく。
 - ①解剖の大きな流れは3～4回先まで把握する。
 - ②頁ごとの手順を理解し、剖出すべき構造物について予習ノートを作成する。
 - ③実習日での事前学習は困難であるので、休日等を利用してできるだけ先へ進めておく。
 - (2) 事前に配布される諸注意に沿って、実習に必要な物を注文・購入しておくこと。
 - (3) 11月15日に催される解剖体慰霊祭には、節度ある服装・態度をもって必ず出席すること

人体構造系Ⅱ授業予定（2年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	4	水	3 4	解剖学実習 1	実習オリエンテーション (解剖学実習総論) 1-4	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	第2
4	5	木	3 4	解剖学実習 2	解剖体安置、洗滌 背部の皮剥と皮下 5-9	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
4	6	金	3 4	解剖学実習 3	背部浅層 9-11	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
4	11	水	3 4	解剖学実習 4	背部深層 11-14	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
4	12	木	3 4	解剖学実習 5	頸部、胸部、腹部、上肢の皮剥と皮下 頸部浅層① 19-21, 23-25, 49-50, 71- 73, 169-172	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
4	13	金	3 4	解剖学実習 6	頸部浅層② 172-177 浅胸筋 25-27 側腹筋、腹直筋 73-78	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
4	18	水	3 4	解剖学実習 7	頸部深層 178-180 上肢の皮下 19-21	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
4	19	木	3 4	解剖学実習 8	肩部、上腕伸側 21-23, 33-34 腋窩 27-30	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
4	20	金	3 4	解剖学実習 9	上腕屈側、前腕屈側① 30-37	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
4	25	水	3 4	解剖学実習 10	前腕屈側②、手掌① 34-42	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
4	26	木	3 4	解剖学実習 11	手掌② 37-42	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
4	27	金	3 4	解剖学実習 12	前腕伸側と手背 43-44	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
5	2	水	3 4	解剖学実習 13	胸郭・腹腔の開放、胸膜、肺 51-57	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
5	9	水	3 4	解剖学実習 14	縦隔①、心臓外景 58-63	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
5	10	木	3 4	解剖学実習 15	縦隔②、心臓内景 63-70	解剖2・ 弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)

※授業内容の数字は『グラント解剖学実習』の該当ページ

人体構造系Ⅱ授業予定（2年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
5	11	金	3 4	解剖学実習16	腹膜、上腹部内臓、腹腔動脈 79-87	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
5	16	水	3 4	解剖学実習17	上・下腸間膜動脈、小腸、大腸① 87-91	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
5	17	木	3 4	解剖学実習18	上・下腸間膜動脈、小腸、大腸② 87-91	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
5	18	金	3 4	解剖学実習19	腸管、肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓の摘出 91-95	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
5	23	水	3 4	解剖学実習20	後腹膜臓器、後腹壁、横隔膜 95-101	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
5	24	木	3 4	解剖学実習21	腰部離断、骨盤折半 ♂113, ♀126 骨盤・会陰・殿部の皮下、坐骨肛門窩 103-107	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
5	25	金	3 4	解剖学実習22	外生殖器と会陰 ♂107-113, ♀121-124 下肢の皮剥と皮下① 135-138	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
5	30	水	3 4	解剖学実習23	骨盤内臓 ♂113-117, ♀124-129 下肢の皮下② 135-138	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
5	31	木	3 4	解剖学実習24	骨盤の血管・神経 ♂117-121, ♀129- 133 大腿伸側、内側 138-145	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
6	1	金	3 4	解剖学実習25	殿部、大腿屈側 145-152	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
6	6	水	3 4	解剖学実習26	下腿屈側 152-156	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
6	7	木	3 4	解剖学実習27	下腿外側、伸側 156-159	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
6	8	金	3 4	解剖学実習28	足底 159-163	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
6	13	水	3 4	解剖学実習29	頭部離断・環椎後頭関節開放 (212-214) 硬膜と内頭蓋底 200-201, 203-206	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
6	14	木	3 4	解剖学実習30	咽頭・喉頭 215-218, 229-232	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)

※授業内容の数字は『グラント解剖学実習』の該当ページ

人体構造系Ⅱ授業予定（2年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
6	15	金	3 4	解剖学実習 3 1	頭部折半 216-217, 227 顔面の皮剥と皮下(浅層①) 182-187, 188-190	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
6	20	水	3 4	解剖学実習 3 2	顔面浅層② 187-188	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
6	22	金	3 4	解剖学実習 3 3	顔面深層① 190-194	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
6	27	水	3 4	解剖学実習 3 4	顔面深層② 190-194 鼻腔 218-222	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
6	29	金	3 4	解剖学実習 3 5	口蓋と口腔 222-229	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
7	4	水	3 4	解剖学実習 3 6	眼窩 206-212	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
7	6	金	3 4	解剖学実習 3 7	外耳・中耳・内耳 232-236	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
7	11	水	3 4	解剖学実習 3 8	上肢の関節 44-48	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
7	13	金	3 4	解剖学実習 3 9	下肢の関節 163-168	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)
7	20	金	3 4	解剖学実習 4 0	総括、納棺、実習室清掃	解剖2・弦本、岡本 分部、佐伯	実 (解)

※授業内容の数字は『グラント解剖学実習』の該当ページ

生 体 分 子 系

責 任 者	氏 名	伊 藤 敬	内 線	7037
	教 室	生化学	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午後1時～午後5時		

対象年次・学期	2年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Biochemistry (Part II)		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

生化学は生命現象を物質レベルの変化で説明しようとする学問である。すなわち生化学的知識とその思考法は生命現象の理解のみならず基礎と臨床を含めた医学全般を理解するためにも不可欠である。生体分子系の講義では、蛋白質、糖質、脂質などの生体分子(Biomolecule)の構造・機能・代謝について、生化学的な基本的事柄を学び、細胞、臓器さらには個体の機能や形態と関連させながら分子レベルで理解することを学ぶ。これらの基礎知識の習得のみでなく、種々の疾患の病態や治療を分子レベルで理解しようとする姿勢を養うことが目標である。

2. 授業内容（講義・実習項目）

次の項目について講義を行う。

1 酵素の構造と機能 2 代謝総論 3 糖質の代謝 4 脂質の代謝 5 ヌクレオチドの代謝 6 アミノ酸の代謝 7 ポルフィリンの代謝 8 臓器に特有な生化学

3. 教科書

書 名	著 者	出 版 社	定 価
ヴォート生化学上下（3版） 又は ヴォート基礎生化学（3版）	村松正實 訳 村松正實 訳	東京化学同人 東京化学同人	13,400 円 7,600円

4. 成績評価の方法・基準

授業内容について100点満点の筆答試験を行い、60点以上を合格とする。授業内試験も評価に用いる。

5. 教員名

生化学：伊藤 敬
原研生化学：浦田芳重
原研生化学：後藤信治
非常勤：宮西隆幸（環境科学部）、村松正実（埼玉医科大学）

6. 備考（準備学習等）

教科書による予習復習

生体分子系授業予定（2年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	4	水	2	自習	自習		
4	6	金	2	代謝総論	細胞内小器官と代謝	生化学・伊藤	第2
4	11	水	2	細胞核の生化学	ゲノムの構造	生化学・伊藤	第2
4	13	金	2	細胞核の生化学	遺伝子転写と翻訳	生化学・伊藤	第2
4	18	水	2	細胞核の生化学	真核生物の遺伝子転写制御	生化学・伊藤	第2
4	20	金	2	細胞核の生化学	真核生物の遺伝子転写制御	生化学・伊藤	第2
4	25	水	2	代謝総論	代謝の全体像と調節	生化学・伊藤	第2
4	27	金	2	酵素の構造・機能	酵素の一般的性質、酵素の触媒機構	生化学・伊藤	第2
5	2	水	2	酵素の構造・機能	酵素と補酵素の作用機構	生化学・伊藤	第2
5	9	水	2	酵素の構造・機能	酵素反応速度論、酵素の調節機構	生化学・伊藤	第2
5	11	金	2	代謝総論	生体酸化の概念	生化学・伊藤	第2
5	16	水	2	代謝総論	ミトコンドリア呼吸鎖と酸化的リン酸化	生化学・伊藤	第2
5	18	金	2	代謝総論	アセチルCoAの異化とクレブス回路	生化学・伊藤	第2
5	23	水	2	糖質の代謝	解糖系、アセチルCoA生成	生化学・伊藤	第2
5	25	金	2	糖質の代謝	グリコーゲンの代謝	生化学・伊藤	第2
5	30	水	2	糖質の代謝	ペントースリン酸サイクル	生化学・伊藤	第2
6	1	金	2	糖質の代謝	糖新生、解糖と糖新生の相互関係	生化学・伊藤	第2
6	6	水	2	糖質の代謝	糖鎖修飾	生化学・伊藤	第2
6	8	金	2	糖質の代謝	ムコ多糖とプロテオグリカン	生化学・伊藤	第2
6	13	水	2	脂質の代謝	脂肪酸の酸化とケトン体形成	生化学・伊藤	第2
6	15	金	2	脂質の代謝	ケトン体形成とエネルギー	生化学・伊藤	第2
6	20	水	2	脂質の代謝	脂肪酸の合成	生化学・伊藤	第2
6	21	木	3	脂質の代謝	不飽和脂肪酸とエイコサノイド	生化学・伊藤	第2
			4	脂質の代謝	貯蔵脂質と膜脂質	生化学・伊藤	
6	22	金	2	脂質の代謝	ステロイドの代謝	生化学・伊藤	第2

生体分子系授業予定（2年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
6	27	水	2	脂質の代謝	血漿リポ蛋白質の動態	生化学・伊藤	第2
6	28	木	3	核酸の代謝	核酸の構造と種類	生化学・伊藤	第2
			4	核酸の代謝	ヌクレオチドの合成	生化学・伊藤	
6	29	金	2	核酸の代謝	ヌクレオチドの分解と再利用	生化学・伊藤	第2
7	4	水	2	アミノ酸の代謝	アミノ酸の代謝と窒素平衡	生化学・伊藤	第2
7	5	木	3	アミノ酸の代謝	尿素回路	生化学・伊藤	第2
			4	アミノ酸の代謝	アミノ酸炭素骨格の分解と合成	生化学・伊藤	
7	6	金	2	アミノ酸の代謝	アミノ酸の誘導体と生理活性物質	生化学・伊藤	第2
7	11	水	2	補講	補講	補講	第2
7	12	木	3	臓器の生化学	骨格筋と平滑筋の生化学	環境科学・宮西	第2
			4	臓器の生化学	心筋細胞の生化学	環境科学・宮西	
7	13	金	2	臓器の生化学	血液凝固と線溶系の生化学	原研生化・後藤	第2
7	19	木	3	ゲノム医学	ゲノム医学概論	埼玉医大・村松	第2
			4	補講	補講	補講	
7	20	金	2	細胞膜の生化学	生体膜の構造と情報伝達機構	原研生化・浦田	第2

分子遺伝系

責任者	氏名	吉浦 孝一郎	内線	7118
	教室	原研遺伝 (人類遺伝学)	e-mail	kyoshi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日～金曜日：13時～17時		

対象年次・学期	2年・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Molecular Genetics		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

基礎医学分野のみならず臨床医学分野を学ぶ上で重要である分子遺伝学の基礎知識を講義する。遺伝学、特に、ヒトの遺伝・多様性について基本的な暗記事項から幅広い応用力を養成し、思考力を養うことができるようになることを目的とする。本講で身につけた応用力・思考力によって、遺伝医療のみならず全ての分野を含めて、将来の医療人としての重要な基本的な応用力・思考力を身につけることができる。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

分子遺伝学の前提となるヒトの遺伝現象の理解から始め、DNA・染色体・ゲノム構造と機能、疾患発症に関わる分子病理、遺伝子治療、遺伝子解析に関する生命倫理まで講義する。遺伝学とはもともと親から子に伝わる現象と多様性を解析する学問だが、現在ではDNAからその現象の説明を付けようとする学問領域となってきた。本講義を通して、メンデル遺伝のマクロの見方から、分子遺伝のミクロの見方までを身につけ、単一遺伝子病から多因子病まで将来の臨床の場に役に立てられるような幅広い知識と応用力を習得して欲しい。

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
遺伝医学への招待 第4版	新川詔夫・阿部京子	南江堂	1,890 円
ヒトの分子遺伝学 第3版	村松正實 監修	メディカル・サイエンス・インターナショナル	11,550 円
ハートウェル遺伝学第1版	菊池昭彦 監訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	10,500 円

4. 成績評価の方法・基準

- 期末試験：授業内容にそった筆答試験 (100点満点)
以上の総計60点以上を合格とする。

5. 教員名

大学院医歯薬学総合研究科

人類遺伝学 吉浦孝一郎 (教授), 木下晃 (講師)

分子設計学 永山雄二 (教授)

新興感染症病態制御学 松山俊文 (教授)

精神神経科学 黒滝直弘 (講師)

薬物治療学 塚元和弘 (教授), 近藤新二 (准教授)

産婦人科学 三浦清徳 (講師)

非常勤講師 松本直通 横浜市立大学大学院環境分子医科学 (教授)

〃 平山謙二 熱帯医学研究所 (教授)

〃 近藤達郎 みさかえの園むつみの家 (医師)

〃 松本 正 みさかえの園むつみの家 (医師)

〃 木住野達也 先端生命科学支援センター (准教授)

〃 原田直樹 三菱化学メディエンス株式会社 長崎ラボラトリー (所長)

6. 備考 (準備学習等)

上記教科書による予習。期末試験の再試験は行なわないので注意。体調不良等の突発的な事情による試験欠席については、追試験を考慮する。

分子遺伝系授業予定（2年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	5	木	1	遺伝医学総論I	遺伝医学の特性・医学における遺伝学の役割	原遺・吉浦	第2
			2	遺伝医学総論II	細胞生物学総論	原遺・吉浦	
4	12	木	1	メンデル遺伝学I	ヒトの形式遺伝と特性	原遺・吉浦	第2
			2	メンデル遺伝学II	ヒトの形式遺伝と特性	原遺・吉浦	
4	19	木	1	細胞遺伝学I	ヒトゲノム・遺伝子の構造と機能	原遺・木下	第2
			2	細胞遺伝学II	ミトコンドリアDNAと遺伝病	原遺・木下	
4	26	木	1	遺伝子の構造I	染色体の構造と解析法	非常勤・原田	第2
			2	遺伝子の構造II	臨床細胞遺伝学・染色体異常症	非常勤・原田	
5	10	木	1	遺伝子の構造III	核酸の生化学	原遺・吉浦	第2
			2	遺伝子の構造IV	分子遺伝学に必要な分子生物学的技術	原遺・吉浦	
5	17	木	1	ミトコンドリア遺伝学	転写・翻訳の機構	薬物治療学・近藤（新）	第2
			2	遺伝子検査法	ヒト遺伝子の発現と制御	薬物治療学・近藤（新）	
5	24	木	1	分子病理学I	遺伝子検査法と疾患発症機構I	原遺・吉浦	第2
			2	分子病理学II	遺伝子検査法と疾患発症機構II	精神科・黒滝	
5	31	木	1	エピジェネティックスI	エピジェネティックス機構	先導生科セ・木住野	第2
			2	エピジェネティックスII	エピジェネティックスと疾患	先導生科セ・木住野	
6	7	木	1	ヒトゲノム医学I	最先端ゲノム医学I	非常勤・松本（直）	第2
			2	ヒトゲノム医学II	最先端ゲノム医学II	非常勤・松本（直）	
6	14	木	1	臨床遺伝学I	遺伝性疾患の臨床I	非常勤・近藤（達）	第2
			2	臨床遺伝学II	遺伝性疾患の臨床II	非常勤・近藤（達）	
6	21	木	1	集団遺伝学	集団遺伝学、遺伝子多型、遺伝的浮動	原遺・吉浦	第2
			2	多因子遺伝基礎	多因子疾患と関連解析の基礎	原遺・吉浦	
6	28	木	1	テーラーメイド医療	生活習慣病の分子遺伝学	薬物治療学・塚元	第2
			2	テーラーメイド医療	薬理遺伝学	薬物治療学・塚元	
7	5	木	1	分子病理学I	発現クローニング	感染防御・松山	第2
			2	分子病理学II	遺伝子改変動物の疾患解析への応用	感染防御・松山	
7	12	木	1	免疫遺伝学	免疫関連遺伝子と遺伝学	非常勤・平山	第2
			2	遺伝子治療	遺伝子治療の原理と応用	分子設計・永山	
7	19	木	1	出生前診断	遺伝性疾患と出生前診断	産婦人科・三浦	第2
			2	遺伝子解析と生命倫理	遺伝子解析・検査に関わる生命倫理	非常勤・松本（正）	

内 臓 機 能 ・ 体 液 系

責 任 者	氏 名	蒔田 直昌	内 線	7031
	教 室	生理学第一 (分子病態生理学)	e-mail	makitan@nagasaki-u. ac. jp
	オフィスアワー	講義曜日の17:00～		

対象年次・学期	2年・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3.5
英語名	Physiology of Visceral Function and Body Fluid		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

正常の生命現象を主として機能的な側面から探求することによって、「命がどうできているか」という医学の基礎知識を学ぶ。臨床の場合においても、生体の生理現象や病的状態を個体・臓器・細胞・遺伝子という異なるレベルで観察・考察し、知識を臨床に応用させることの重要性を体験する。

- 1) 個々の内臓機能を学ぶ臓器の生理学を基礎に、恒常性維持のための統合的調節機構の観点から生体機能を理解できるよう講義を行う。
- 2) 実習では循環、呼吸、血糖調節機能の実習を体験することにより基本的な知識の応用力と臨床生理学的知識の獲得をはかる。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

講義項目

- 1) 自律神経系
- 2) 呼吸
- 3) 血液・体液
- 4) 酸塩基平衡異常
- 5) 心臓
- 6) 血管
- 7) 腎臓・排泄
- 8) 内分泌・代謝
- 9) 体温の調節
- 10) 消化吸收
- 11) 特別講義

実習項目

- 1) 心電図、肺機能
- 2) 心音、血圧、心エコー
- 3) 循環反射、消化器
- 4) 血糖調節

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出 版 社	定 価
教科書			
標準生理学	小澤瀨司 他	医学書院	12,000円
ギャノン生理学 23版	岡田泰伸 他	丸善	10,000円
新生理学	小幡邦彦 他	文光堂	5,500円
参考図書			
人体の正常構造と機能	坂井建雄、河原克雅	日本医事新報社	
コンスタンゾ明解生理学	岡田 忠他	エルゼビアジャパン	6,000円

4. 成績評価の方法・基準

実習は全て履修する。レポート(ワープロ不可、手書きで)と前後期2回の筆答試験で評価する。

5. 教員名

講義担当

第一生理：蒔田直昌、松本逸郎、嶋田敏生

原研分子：永山雄二

循環器内科：前村浩二

第一内科：宇佐俊郎

光学医療診療部：磯本 一

消化器内科：竹島史直、市川辰樹

非常勤：井上靖久(活水女子大学)、望月直樹(国立循環器病研究センター)

実習担当

蒔田直昌、松本逸郎、嶋田敏生

6. 備考(準備学習等)

講義は指定した教科書と参考図書の図を中心に口頭(パワーポイント)で説明を交えて行う。

【第一生理学HP】 <http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/physlgy1/>

内臓機能・体液系授業予定（2年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	4	水	1	細胞生理	細胞生理学	生理1・蒔田	第2
4	11	水	1	自律1	自律機能と恒常性, 交感神経系と副交感神経 (化学伝達と受容器)	生理1・松本	第2
4	18	水	1	自律2	自律神経求心性神経と内臓-内臓反射	生理1・松本	第2
4	25	水	1	呼吸1	肺の構造、呼吸運動、肺気量	生理1・松本	第2
5	2	水	1	呼吸2	肺コンプライアンス、気道抵抗、閉塞性と拘束性疾患	生理1・松本	第2
5	9	水	1	呼吸3	ガス交換（酸素の運搬）、ヘモグロビンと酸素飽和度	生理1・松本	第2
5	16	水	1	呼吸4	ガス交換（炭酸ガスの運搬）、換気血流比	生理1・松本	第2
5	23	水	1	呼吸5	肺循環（肺血流、肺血管抵抗、肺内圧）	生理1・松本	第2
5	30	水	1	呼吸6	呼吸調節、呼吸中枢	生理1・松本	第2
6	6	水	1	血液と体液	骨髄幹細胞、赤血球の機能、ヘモグロビン	生理1・嶋田	第2
6	13	水	1	血液と体液	白血球・リンパ球と生体防御	生理1・嶋田	第2
6	20	水	1	血液と体液	血小板、血液凝固、線溶、補体系	生理1・嶋田	第2
6	27	水	1	血液と体液	血漿成分の機能	生理1・嶋田	第2
7	4	水	1	血液と体液	細胞外液と細胞内液	生理1・嶋田	第2
7	11	水	1	酸・塩基平衡	血液ガス、pH、呼吸性と代謝性酸・塩基平衡異常	生理1・嶋田	第2

内臓機能・体液系授業予定（2年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
10	3	水	1	腎・排泄1	腎臓の構造と機能	生理1・松本	第1
10	4	木	1	腎・排泄2	糸球体、傍糸球体装置	生理1・松本	第1
10	10	水	1	心臓1	心臓の構造・心筋の構造・イオンチャンネル	生理1・蒔田	第1
10	11	木	1	腎・排泄3	尿細管の機能、再吸収、尿の濃縮	生理1・松本	第1
10	17	水	1	心臓2	心臓の自動性・膜電位・活動電位	生理1・蒔田	第1
10	18	木	1	心臓3	心筋の興奮伝導と収縮の連関	生理1・蒔田	第1
10	24	水	1	心臓4	ポンプとしての心臓	生理1・蒔田	第1
10	25	木	1	循環器特別講義	特別講義	生理1・非常勤講師 望月	第1
10	31	水	1	心臓5	心電図	生理1・蒔田	第1
11	1	木	1	心臓6	心血管系の形態と機能	生理1・非常勤講師 井上	第1
11	7	水	1	腎・排泄4	電解質の再吸収と分泌、クリア	生理1・松本	第1
11	8	木	1	腎・排泄5	血圧の調節、中枢神経系による調節（ホルモンと自律神経系）	生理1・松本	第1
11	14	水	1	血管1	血管の機能・構造	生理1・蒔田	第1
11	15	木	1	血管2	静脈系、リンパ系、微小循環	生理1・蒔田	第1
11	21	水	1	血管3	局所循環（冠、脳、肝）	生理1・蒔田	第1
11	22	木	1	血管4	心臓中枢、血管中枢、循環反射	生理1・蒔田	第1
11	28	水	1	循環器特別講義	臨床医学と循環生理の接点	循環器内科・前村	第1
11	29	木	1	腎・排泄6	排尿反射、酸塩基平衡の腎の代償	生理1・松本	第1
12	5	水	1	代謝・体温1	体温とは、体温調節（中枢のはなし）	生理1・嶋田	第1
12	6	木	1	代謝・体温2	高体温（発熱とうつ熱）、低体温、熱中症	生理1・嶋田	第1
12	12	水	1	内分泌・代謝1	内分泌代謝総論	永山	第1
12	13	木	1	内分泌・代謝2	視床下部－下垂体－甲状腺	永山	第1

内臓機能・体液系授業予定（2年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
12	19	水	1	内分泌・代謝3	視床下部－下垂体－GH/PRL、下垂体後葉、副甲状腺	永山	第1
12	20	木	1	内分泌・代謝4	視床下部－下垂体－副腎	永山	第1
12	26	水	1	実習の説明	実習の説明	生理1・嶋田	第1
			3	実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	生理1 蒔田・松本・嶋田	第1実習室
			4				
1	9	水	1	内分泌・代謝5	心血管内分泌	永山	第1
			3	実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	生理1 蒔田・松本・嶋田	第1実習室
			4				
1	10	木	1	内分泌・代謝6	視床下部－下垂体－性腺	永山	第1
1	16	水	1	内分泌・代謝7	物質代謝・同化と異化	永山	第1
			3	実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	生理1 蒔田・松本・嶋田	第1実習室
			4				
1	17	木	1	内分泌・代謝特別講義	ヒトの一生とホルモン変化	第一内科・宇佐	第1
1	23	水	1	消化器1	上部消化管	磯本	第1
			3	実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	生理1 蒔田・松本・嶋田	第1実習室
			4				
1	24	木	1	消化器2	下部消化管	竹島	第1
1	30	水	1	消化器3	肝胆膵(1)	市川	第1
			3	実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	生理1 蒔田・松本・嶋田	第1実習室
			4				
1	31	木	1	消化器4	肝胆膵(2)	市川	第1

医 と 社 会

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育支援センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16時30分～17時30分		

対象年次・学期	2年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	医と社会7.5単位の一部
英語名	Medicine and Society		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

病める人と良好なコミュニケーションが行え、病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている環境を洞察しうる医師となる。

病気を治療するだけでなく医療チームや家族と力を合わせ、患者の家庭や社会への復帰と社会の偏見を克服して患者の社会参加を真摯にめざす医師となる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

A 医療と人間

人の心の発達、性と生、高齢期を生きる、医療人と患者及び家庭との関係の4区分で講義を行い、問題意識を深める課題を各講義で提示する。学生は課題を選び、計2つのレポートを提出する。スモールグループで1課題を調べ、セミナーで発表する。

1) 人の心の発達

乳幼児と親の心、乳幼児期と思春期、子供と社会、学童期と思春期の心の発達

2) 性と生

人間の性、リプロダクティブヘルス&ライツ、QOLとしての性、ドメスティックバイオレンス

3) 高齢期を生きる

高齢期の特徴、高齢期介護の実際、地域における高齢者の生活を考える、痴呆性高齢者を家族と地域で支える

4) 医療人と患者及び家族との関係

自助グループ活動と医療人の役割、看護の心、ホスピス、私の考える理想の医師像

5) チーム医療

3. 教科書、参考書等

各区分の最初の時間に紹介する。

4. 成績評価の方法・基準

4つの各区分のうち課題を選んでレポートを2つ提出する。発表会のテーマの1つを担当する。再履修のため受講できない学生については別途面談の上決めていきたい。

レポート、発表会、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習には全て出席すること。講義を欠席した学生には別途課題を課します。

5. 教員名

委員：医育支援センター：安武亨、分部哲秋、桑原宏永、松本恵、保健学科教務委員

A1：川原ゆかり（長崎短期大学保育学科准教授）、小柳憲司（長崎県立こども医療福祉センター診療部長）、福田雅文（みさかえの園むつみの家施設長）、西村喜文（西九州大学社会福祉学科教授）

A2：安日泰子（やすひウィメンズヘルスクリニック院長）、中村まり子（在宅助産師）、中田慶子（DV防止ながさき）

A3：陣野紀代美（長崎市医師会保健福祉センター）、菅崎弘之（すがさきクリニック院長）、石松隆和（工学部）

A 4：講師未定（長崎県こども・女性・障害者支援センター）、中尾勘一郎（ホーム・ホスピス 中尾クリニック院長）、山口明（元壱岐警察署）、山口弘美（長崎県精神障害者団体連合会）中川賀雅、西田健一郎（ダルク）

A 5：郡山一明（救急救命九州研修所）

6. 備考（準備学習等）

課題の発表会およびレポートの作成にあたり、各グループは、担当区分の教員に連絡をとり許可を得たうえで体験学習を行なうこと。また、発表会の3日前に、準備した発表スライドを医育支援センターに持参し、発表会用のプリント（ハンドアウト）を用意すること。

医と社会授業予定(2年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
10	3	水	3	性と生1	オリエンテーション 人間の性、概論	医育支援センター、 非常勤・安日	第2
			4	性と生2	QOLとしての性	非常勤・中村	
10	10	水	3	人の心の発達1	乳児と親の心	非常勤・福田	第2
			4	人と心の発達2	乳幼児期と思春期	非常勤・西村	
10	17	水	3	医療人と患者及び家族との関係1	自助グループ活動と医療人の役割、体験談その1	非常勤・講師未定 非常勤・中川・西田	第2
			4	性と生3	ドメスティックバイオレンス	非常勤・中田	
10	24	水	3	高齢期を生きる1	地域における高齢者の生活を考える	工学部・石松	第2
			4	高齢期を生きる2	高齢者介護の実際	非常勤・陣野	
10	31	水	3	人の心の発達3	子供と社会 児童虐待の現状から	非常勤・川原	第2
			4	人の心の発達4	子供の心の発達、学童期、思春期	非常勤・小柳	
11	7	水	3	医療人と患者及び家族との関係2	私の考える理想の医師像 体験談その2	非常勤・山口(明) 山口(弘)	第2
			4	医療人と患者及び家族との関係3	ターミナルケア 患者とのコミュニケーション	非常勤・中尾	
11	14	水	3	高齢期を生きる3	認知症高齢者を家族と地域で支える	非常勤・菅崎	第2
			4	セミナー準備		医育支援センター、 保健学科・教務委員	
11	16	金	1	創立記念講演会			
			2				
11	21	水	3	セミナー準備		医育支援センター、 保健学科・教務委員	第2
			4			医育支援センター、 保健学科・教務委員	
11	28	水	3	セミナー1	生と性	医育支援センター、 保健学科・教務委員	第2
			4	セミナー2	人の心の発達	医育支援センター、 保健学科・教務委員	
12	5	水	3	セミナー3	高齢期を生きる	医育支援センター、 保健学科・教務委員	第2
			4	セミナー4	人の心の発達	医育支援センター、 保健学科・教務委員	
12	12	水	3	セミナー5	医療人と患者及び家族との関係	医育支援センター、 保健学科・教務委員	第2
			4	セミナー6	高齢期を生きる	医育支援センター、 保健学科・教務委員	
12	19	水	3	特別講義	チーム医療	救急救命九州研修所・ 郡山	第2
			4				

神 経 ・ 感 覚 器 系

責 任 者	氏 名	森 望	内 線	7017
	教 室	神経形態学 (解剖学第一)	e-mail	morinosm@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日の16:00-18:00		

対象年次・学期	2年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Structural principles of human brain and the nervous system		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

神経解剖学の教育目標は、ヒトの脳神経系の形態的な成り立ちとその由来を学び、高度に発達したヒトの脳機能発現の構造基盤を理解することにある。この学問はもともと肉眼解剖学の延長線上にあったが、前世紀初頭における神経組織学の発達とニューロン説の確立を経て、神経ネットワークの学問として発展してきた。最近では分子神経生物学やシステムバイオロジーの発達とともに、現代神経科学の構造基盤を形作る学問として重要な位置を占める。ここでは、臨床現場での各種脳神経疾患への対処に通ずる基礎学問として、脳神経系および感覚器系の構造と解剖学用語を学ぶ。肉眼レベルでの脳解剖実習に臨み、また微細構造レベルでの神経解剖や神経回路再編等の現代神経科学の構造的な要素も学習する。また、脳画像の基礎と併せて、近年急速に発達しつつある生体脳のイメージングについても学習する。脳神経系と感覚器系の解剖学用語を理解するとともに、その構造的成り立ちを総合的に理解することを到達目標とする。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

授業は、系統的な講義として構成する。アトラスは必携とし、その図を理解することが重要。講義は教科書に準じつつプリントを併用。神経系全体の総論と各論、感覚器の構造について学ぶ。分子脳科学、脳画像の見方、脳内分子イメージングの方法論等についても学習する。基本的には構造の理解を主とするが、それぞれの部位の機能成立の構造基盤を神経回路のつながりとして理解することが重要。無論、神経解剖学用語(日英)の理解も大切。実習では、ヒトの脳の実物を精細に観察し、肉眼解剖により大まかな脳領域の構成を理解する。

3. 教科書、参考書等 (★ は教科書、必携)

書 名	著 者	出版社	定 価
★解剖学アトラスⅢ神経系と感覚器 (第6版)	W.Kahle (著)、平田 (訳)	文光堂	5,600円
神経解剖カラーテキスト (第2版)	A.R. Crossman, C. Neary (著) 野村、水野 (訳)	医学書院	5,600円
プロメテウス解剖学アトラス (頭部/神経解剖)	坂井、河田 (監訳)	医学書院	11,000円
人体の正常構造と機能 (神経系1、2)	河田、稲瀬他	日本医事新報社	各6,200円
神経科学- 脳の探究-	Mark F.Bear 他(著)、加藤他(訳)	西村書店	7,600円
脳単	原島 (著)	NTS	2,730円

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験の結果を重視するが、講義・実習への参加態度と小テストも総合評価する。

5. 教員名

解剖学第一：森 望、大山恭司、安田邦彦 脳外科：永田泉
非常勤講師：木山博資 (名古屋大学医学部教授)、佐藤真 (福井大学医学部教授)

6. 備考 (準備学習等)

神経・感覚器授業予定（2年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教官	教室
10	5	金	3	講義 1	概論 1 神経系序説（神経解剖学の歴史、総論、脳の概観）	森	第 1
			4	講義 2	概論 2 神経系の基本要素	森	第 1
10	12	金	3	講義 3	概論 3 脳・脊髄の発生、発達と進化	森	第 1
			4	講義 4	脊髄	森	第 1
10	19	金	3	講義 5	脳幹と脳神経 1（延髄、橋、中脳）	大山	第 1
			4	講義 6	脳幹と脳神経 2（脳神経）	安田	第 1
10	26	金	3	講義 7	小脳	森	第 1
			4	講義 8	脳血管系と脳脊髄液系	脳外科・永田	第 1
11	2	金	3	講義 9	間脳 1（視床、特に背側視床）	森	第 1
			4	講義 10	間脳 2（視床上部、腹側視床、視床下部と下垂体）	大山	第 1
11	9	金	3	講義 11	終脳 1（概論、嗅皮質、扁桃核、海馬）	森	第 1
			4	講義 12	終脳 2（大脳新皮質、層構造、皮質領野、線維路）	森	第 1
11	16	金	3	講義 13	終脳 3（大脳辺縁系と大脳基底核）	森	第 1
			4	講義 14	終脳 4 特別講義（新皮質層構造形成の分子基盤）	非常勤（佐藤）	第 1
11	30	金	3	実習 1	脳の外観、脳膜、脳底、血管系の観察	森・大山・安田	実（解）
			4	実習 2	大脳皮質外側面（回と溝）の観察	森・大山・安田	実（解）
12	7	金	3	実習 3	小脳・脳幹の離断、小脳の解剖	森・大山・安田	実（解）
			4	実習 4	脳幹の解剖、脳神経の観察	森・大山・安田	実（解）
12	14	金	3	実習 5	大脳半球正中断、内側面の観察、海馬、帯状束、脳弓の剖出	森・大山・安田	実（解）
			4	実習 6	島、連合線維、レンズ核、放線冠の剖出	森・大山・安田	実（解）
12	21	金	3	実習 7	大脳半球前頭断面の観察	森・大山・安田	実（解）
			4	実習 8	大脳半球水平断面の観察	森・大山・安田	実（解）
1	4	金	3	講義 15	肉眼的神経解剖：脳解剖実習の復習と神経解剖学用語	森	第 1
			4	講義 16	植物神経系（自律神経系）	大山	第 1
1	11	金	3	講義 17	脳機能系（運動系・感覚系）	森	第 1
			4	講義 18	感覚器 1：視覚系	森	第 1
1	18	金	3	講義 19	感覚器 2：聴覚・平衡覚系	森	第 1
			4	講義 20	感覚器 3：嗅覚系・味覚系	森	第 1
1	25	金	3	講義 21	脳組織化学と脳画像（生体脳イメージング）	森	第 1
			4	講義 22	化学的神経解剖（神経薬理学との接点）	森	第 1
2	1	金	3	講義 23	機能的神経解剖 特別講義（神経の温存と回路再編の分子基盤）	非常勤（木山）	第 1
			4	講義 24	病態脳／神経変性疾患（神経学・老年学との接点）	森	第 1

発 生 ・ 組 織 系

責 任 者	氏 名	小路 武彦	内 線	7027
	教 室	解剖学第三 (組織発生解剖学)	e-mail	tkoji@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	(木) 16:30~18:00		

対象年次・学期	2年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
英語名	Human development and Histology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

医師となるために必要とされる正常人体組織学と発生学の基礎知識を修得する。それらの知識と組織標本観察力は、病理組織学を始め後に続いて修得する基礎および臨床科目を十分に理解するのに必要である。よって、それら諸科目との関連性を強調しながら、現代発生学および組織学の知識のエッセンスを伝えたい。

本講義により顕微鏡像から組織・器官を特定でき、その形態的特徴を適切な用語を用いて説明できることを到達目標とする。また、各器官の発生学についても説明できる事とする。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

後期に細胞学、発生学および組織学総論・各論の講義を行う。講義と平行して組織学の実習を行い、実習内容を毎回チェックする。講義は第一講義室で行い、実習は第二実習室で行う。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
参考書			
カラー機能組織学 (原著第2版) (仮)	J. B. Kerr	医歯薬出版	10,500 円
標準組織学 総論 (4版)	藤田尚男、藤田恒夫	医学書院	8,925 円
標準組織学 各論 (4版)	藤田尚男、藤田恒夫	医学書院	12,600 円
The Developing Human: Clinically Oriented Embryology (9版)	K. L. Moore & T. V. N. Persuad	Saunders	6,207 円
標準細胞生物学 (2版)	石川春律、近藤尚武 柴田洋三郎 編	医学書院	5,670 円
ラングマン人体発生学 (10版)	T. W. Sadler	医歯薬出版	8,820 円
ムーア人体発生学 (8版)	K. L. Moore	医歯薬出版	12,600 円
永遠の不死：精子形成細胞の生物学	小路武彦 編	サイエンス社	2,310 円

4. 成績評価の方法・基準

成績の評価は、学期末に行うカラスライドを用いたペーパーテストにより行う。また、予告無しの中間テストも行われる。なお、期末試験の受験には講義時間数の2/3以上の出席が必要であり、これに満たない場合は失格となる。

発生学分野30点、組織学講義分野30点、組織学実習分野40点の100点満点とし、合計点が60点以上で、3分野中2分野の得点が60%以上、1分野の得点が45%以上である場合を合格とする。再試験は年度末に1回だけ行う。

5. 教員名

解剖学第三 : 小路武彦、遠藤大輔、宋寧

口腔解剖第二 : 和泉伸一

第二内科 : 西野友哉

非常勤講師 : 井上靖久、江島邦彰、鶴田大輔、菱川善隆、吉永一也

6. 備考 (準備学習等)

一年次の「Human Biology」で学んだ内容を復習しておくこと。

発生組織系授業予定（2年後期）

	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室	
10	4	木	2	1. 生殖細胞形成	A. 体細胞分裂と成熟分裂	解剖3・小路	第1	
			3		B. 成熟過程における形態学的変化			
			4	2. 排卵から着床まで	非常勤・井上			
10	11	木	2	3. 2層性胚盤		非常勤・井上	第1	
			3	4. 3層性胚盤				
			4	5. 胚子期	A. 三胚葉誘導体 B. 2ヵ月中の外形			
10	18	木	2	6. 胎児期	A. 胎児の発生	非常勤・井上	第1	
			3	7. 体腔と漿膜	A. 体腔の形成	非常勤・江島		
			4	1. 細胞 2. 組織の概念 3. 上皮組織	A. 分類 B. 上皮細胞間の特殊分化 C. 腺	解剖3・小路		
10	25	木	2	4. 支持組織(I)	A. 結合組織 B. 軟骨	解剖3・小路	第1	
			3	0. 実習説明	諸注意、顕微鏡引渡し	解剖3・小路 遠藤 宋		実2
			4	3. 上皮組織	実習			
11	1	木	2	4. 支持組織(II) 5. 筋組織	C. 血液・リンパ A. 平滑筋 B. 骨格筋 C. 心筋	解剖3・小路	第1	
			3	4. 支持組織 5. 筋組織	実習	解剖3・小路 遠藤 宋		実2
			4					
11	8	木	2	6. 脈管系	A. 心臓脈管系の発生 B. 毛細血管 C. 動脈 D. 静脈 E. 心臓	非常勤・江島	第1	
			3		実習	解剖3・小路 遠藤 宋		実2
			4					
11	15	木	2	特別講義		非常勤・吉永	第1	
11	22	木	2	7. リンパ性器官	A. リンパ性器官の発生 B. リンパ節 C. 脾臓 D. 胸腺	解剖3・遠藤	第1	
			3		実習	解剖3・小路 遠藤 宋		実2
			4					
11	29	木	2	8. 消化器系(I)	A. 消化管の発生 B. 咽頭 C. 食道 D. 胃 E. 小腸 F. 大腸	非常勤・菱川	第1	
			3		実習	解剖3・小路 遠藤 宋		実2
			4					

発生組織系授業予定（2年後期）

	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
12	6	木	2	8. 消化器系(II)	G. 肝臓、胆嚢の発生 H. 肝臓と胆嚢 I. 膵臓の発生 J. 膵臓	解剖3・小路	第1
			3		K. 口腔 L. 歯 M. 唾液腺	口腔解剖2・和泉	実2
			4		実習	解剖3・小路 遠藤 宋 口腔解剖2・和泉	
12	13	木	2	9. 呼吸器系	A. 呼吸器系の発生 B. 鼻腔 C. 喉頭 D. 気管 E. 肺	解剖3・遠藤	第1
			3		実習	解剖3・小路 遠藤 宋	実2
			4				
12	20	木	2	10. 泌尿器系	A. 泌尿器系の発生 B. 腎臓 C. 尿管 D. 膀胱 E. 尿道	内科2・西野	第1
			3		実習	解剖3・小路 遠藤 宋	実2
			4				
1	10	木	2	11. 男性生殖器系	A. 男性生殖器系の発生 B. 精巣 C. 精路とその付属腺	解剖3・小路	第1
			3		実習	解剖3・小路 遠藤 宋	実2
			4				
1	17	木	2	12. 女性生殖器系	A. 女性生殖器系の発生 B. 卵巣 C. 卵管 D. 子宮 E. 膣 F. 外陰部 G. 胎盤 H. 乳腺	非常勤・江島	第1
			3		実習	解剖3・小路 遠藤 宋	実2
			4			非常勤・江島	
1	24	木	2	13. 内分泌系(I)	A. 下垂体 B. 上皮小体 C. 甲状腺	解剖3・遠藤	第1
			3	特殊染色実習	チューター制による組織標本 染色実習	解剖3・小路 遠藤 宋	実2
			4			口腔解剖2・和泉 非常勤・鶴田	
1	31	木	2	13. 内分泌系(II)	D. 松果体 E. 副腎 F. 消化管の内分泌 G. パラガングリオン	解剖3・遠藤	第1
			3		実習	解剖3・小路 遠藤 宋	実2
			4				

動物性機能系

責任者	氏名	篠原 一之	内線	7033
	教室	生理学第二 (神経機能学)	e-mail	kazuyuki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16時30～17時30分		

対象年次・学期	2年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Neurobiology and Behavior		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

動物性機能生理学では脳および神経の機能について学習する。最近急速に発展した脳・神経機能を学ぶためには、神経細胞レベルからヒトの認知・行動レベルまで、トータルに学ばねばならない。そこで、授業では、脳・神経科学を、1) 体の内外からの情報を受けて解釈する感覚系、2) 情報に基づいて判断を行う統合系、3) 行動を組織して実行する運動系、に分けて、それぞれ分子レベルから現象レベルまで統合的に理解し、脳・神経系学問領域における思考力を養う。

最近、脳・神経科学領域の進歩は目まぐるしい。膨大な情報の中から、将来医師となった時に知っておくべき、基礎的知識から最先端医療に応用可能な知識を授業で学ぶ。具体的には、神経細胞の情報伝達機構、神経再生、脳の統合機能（記憶、情動、本能）、感覚受容・知覚等のテーマについて、統合的システムとして理解できるようになり、脳・神経科学関連疾患の病態、病因、治療についての考察ができることも目標とする。

講義で使用したスライドはWebサイト (<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/physlgy2/>) にアップロードする (学内のみ閲覧可能)。また、授業内容の予定やまとめも上記サイトに載せるので、予習、復習に活用すること。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

講義：神経科学に含まれる事象について、細胞レベル、運動系の末梢から中枢まで、感覚系、統合的脳機能へと、そのメカニズムと全体における位置付けを重要視しながら、発展的に進めていく。項目によっては各専門家を呼び、高度な最新の内容をわかりやすく講義してもらう。

実習：人体を用いた神経、筋の興奮現象の測定を体験し、観察される現象の機構を説明できるようにする。感覚系および中枢を介した反応についていくつかの課題を実行し、背景となる神経機構についての基本的性質を考察し理解する。

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
人体生理学	篠原一之 他共著	朝倉書店	3,800 円
生理学テキスト	大地陸男 著	文光堂	4,800 円
標準生理学	本郷 利憲 他共著	医学書院	12,600 円
ニューロンの生物学	Fred Delcomyn (小倉明彦・富永恵子訳)	南江堂	8,800 円
第3版カールソン 神経科学テキスト	Heil. R. Carlson	丸善	18,900 円
Principles of Nueral Science	Eric. R. Kandel	McGraw-Hill Companies	10,669 円

4. 成績評価の方法・基準

原則として筆答試験による。（実習も考慮する。）

5. 教員名

生理学第二：篠原一之、西谷正太、藤澤隆史、土居裕和

耳鼻咽喉科：高橋晴雄、隈上秀高

眼科：北岡 隆

麻酔科：北條美能留

歯学部・口腔生理：岡田幸雄

非常勤講師：内匠 透（広島大学）

友田明美（福井大学）

6. 備考（準備学習等）

動物性機能系授業予定（2年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
10	3	水	2	入門	神経科学の基礎と歴史	生理2 篠原	第1
10	5	金	2	入門	神経系を構成する諸要素（形態・機能・分子）	生理2 西谷	第1
10	10	水	2	興奮	静止状態のニューロンと膜電位	生理2 土居	第1
10	12	金	2	興奮	ニューロンの興奮とその伝導	生理2 土居	第1
10	17	水	2	シナプス	シナプス伝達	生理2 西谷	第1
10	19	金	2	シナプス	神経伝達物質の放出と受容体	生理2 藤澤	第1
10	24	水	2	神経細胞死	神経細胞の死	生理2 西谷	第1
10	26	金	2	神経細胞死	神経細胞の再生	生理2 篠原	第1
10	31	水	2	運動系	骨格筋の構造・機能	生理2 藤澤	第1
11	2	金	2	運動系	運動系システムの階層性	生理2 西谷	第1
11	7	水	2	運動系	脊髄反射	生理2 土居	第1
11	9	金	2	運動系	大脳基底核	生理2 西谷	第1
11	14	水	2	運動系	小脳	生理2 土居	第1
11	21	水	2	運動・感覚	運動と感覚の連関	生理2 土居	第1
11	28	水	2	統合脳	高次感覚機能	生理2 藤澤	第1
11	30	金	2	感覚系	体性感覚	生理2 西谷	第1
12	5	水	2	感覚系	嗅覚	生理2 篠原	第1
12	7	金	2	感覚系	視覚	眼科 北岡	第1
12	12	水	2	感覚系	味覚	口腔生理 岡田	第1
12	14	金	2	感覚系	痛覚	麻酔科 北條	第1
12	19	水	2	感覚系	平衡感覚	耳鼻科 隈上	第1

動物性機能系授業予定（2年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
12	21	金	2	感覚系	聴覚	耳鼻科 高橋	第1
12	26	水	2	統合脳	意識と注意	生理2 土居	第1
			3	生理学実習	1. 誘発筋電図	生理2 篠原・西谷・藤澤・土居	実習室
			4		2. 感覚の基本的性質		
1	4	金	2	統合脳	睡眠と脳波	生理2 篠原	第1
1	9	水	2	統合脳	本能行動（視床下部）	生理2 西谷	第1
			3	生理学実習	1. 誘発筋電図	生理2 篠原・西谷・藤澤・土居	実習室
			4		2. 感覚の基本的性質		
1	11	金	2	統合脳	言語	生理2 藤澤	第1
1	16	水	2	統合脳	情動（大脳辺縁系）	生理2 篠原	第1
			3	生理学実習	1. 誘発筋電図	生理2 篠原・西谷・藤澤・土居	実習室
			4		2. 感覚の基本的性質		
1	18	金	2	統合脳	発達に伴う脳の可塑性	福井大学 友田	第1
1	23	水	2	統合脳	大脳連合野	生理2 藤澤	第1
			3	生理学実習	1. 誘発筋電図	生理2 篠原・西谷・藤澤・土居	実習室
			4		2. 感覚の基本的性質		
1	25	金	2	統合脳	脳機能の分子的基盤	広島大学 内匠	第1
1	30	水	2	統合脳	学習と記憶（脳内メカニズム）	生理2 篠原	第1
			3	生理学実習	1. 誘発筋電図	生理2 篠原・西谷・藤澤・土居	実習室
			4		2. 感覚の基本的性質		
2	1	金	2	統合脳	学習と記憶（シナプスの可塑性）	生理2 篠原	第1

医学ゼミ

責任者	氏名	伊藤 敬	内線	7037
	教室	生化学	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午後1時～午後5時		

対象年次・学期	1年：前期、後期 2年：前期、後期 3年：前期 4年：前期、後期	講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択	必修	単位数	前期、後期各1
英語名	Small group medical seminar		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。AO学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

2. 授業科目の選択方法

- A. 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教官、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- B. 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- C. 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

3. 教科書、参考書等

担当教員が提示する。

4. 成績評価の方法・基準

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期・後期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

5. 指導教員など

医学科、熱帯医学研究所、先導生命支援センター教員

6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

「医学ゼミ」平成24年度開講テーマ一覧(2年次)

(2年次)

番号	講座名	対象学年・開講時期	ゼミテーマ	責任者	目的・方針	内容	開講時間	場所	評価方法	受講可能人数
1	熱帯医学研究所臨床医学部門	1年次前期(AO:熱帯医学) 1~2年次一般学生も参加可能	熱帯医学入門	有吉 紅也	1)より幅広い視野を持った熱帯医学研究医を育成するために、熱帯医学が幅広い学問領域であることを理解させ、熱帯医学における基礎医学研究の重要性を学ぶこと 2)長崎大学における熱帯医学に貢献する基礎医学研究活動を学ぶこと	熱帯医学に関係する基礎医学研究に携わる医学系基礎研究分野教室及び熱帯医学研究所基礎教室の教授が、各分野の背景を平易な用語で説明しながら、研究活動の概要を紹介する。	月曜日5校時	熱帯医学研究所一階小会議室	出席状況およびレポート(英語)	10名まで
2	難島・へき地医療学講座	1年次前期(推薦:地域医療) 2年次後期3年次前期	しまで学ぶ地域医療	前田 隆浩	島嶼部における地域医療の現場を見て、地域における保健・医療・福祉の役割と機能、そして地域包括医療についての基礎を理解する。	長崎県難島をはじめとした地域医療の現場に滞在し(原則3泊4日)、地域医療関連施設において見学あるいは体験実習を行った上で、地域医療と地域包括ケアについての討論を行う。	受講生と相談し、長期休暇等を利用して開講日を決定する。例年と同様に3泊4日の滞在型集中ゼミを行う。	長崎県難島をはじめとした地域医療の現場	出席・発表・レポート	各学年原則5~10名
3	小児科	2年次前期	文学作品から読む小児疾患	岡田 雅彦	小児疾患が登場する文学作品を読み、それぞれの時代に描かれた小児疾患について考察することで小児疾患の特徴、医療の進歩、社会環境の変化について理解を深める。	大江健三郎、三島由紀夫、松本清張、宮部みゆき、アカサ・クリスティ、らの作家の作品から小児疾患が登場するものを読み、作家が描く小児疾患像を通じて作家の思いやその時代における小児疾患をとりまく社会環境について考察する。併せて現在の医療環境と比較して、医療の進歩・社会環境の変化について考える。	金曜日1校時	病院6階西病棟カンファランス室	出席点 レポート点	10名前後
4	原研国際	2年次AO後期、2年次後期	国際保健入門(2)	高村 昇	一年時に引き続き、AO国際枠で入学した学生を中心に、世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、国際保健に関する成書の輪読会を行い、あわせて国際保健に関する概説を行う。勿論、一般入試での学生も歓迎する。	「Textbook of International Health」をはじめとする国際保健関連の英文資料を輪読することで国際保健、国際医療の実態についてより深い理解を得る。	月曜日5校時	原研棟3階コミュニケーションセンター	出席状況、ゼミにおける発表内容等を考慮して評価する。	10名
5	第一生理	2年次前期	小説『赤ひげ』を読む	松本 逸郎	医師には高い医学的知識と技術のほか、深い人間愛と多様な生き方を許容し理解する力がある。先人の『ひと』に対する洞察には学ぶところが多し。山本周五郎作小説『赤ひげ』を読みながら『ひと』に対する理解と目指すべき医師像は如何にあるかの大きなテーマに挑むとともに書に親しみ、感性を磨きつつ、読むことの楽しさを共に体験したい。	あらかじめ用意した設問を念頭に全員が作品を通読する。『赤ひげ』の8話のそれぞれについてチューターによる粗筋の紹介をし、設問に対する意見や各人の最も強く感じたことを発表(毎回レポートとして提出し全員討議を行う)。最終回は黒澤明監督の映画『赤ひげ』を鑑賞して映像文化と文芸作品との違いを考察する。	金曜日1校時	第2セミナー室	毎回の授業に設定した課題に対するレポート(A4用紙2枚程度)による	10名
6	総合診療学	2年次後期	事例より学ぶ家庭医療学	大園 恵幸	地域医療の中心となる家庭医療についてのプライマリケア、心のケア、在宅医療、欧米における家庭医療などの事例を検討することによる家庭医療学の理解を深める。	日本と欧米の家庭医療の違い、家庭医療における医療面接・家族志向のアプローチ、医療面接、家族志向のアプローチなどを事例より学ぶ。	金曜日5校時	総合診療科医局	発表、討論、レポート、出席等による評価	10名
7	薬理学	2年次後期	脳を守る	丹羽 正美	脳を保護することの意義を理解し、その手段を考える。	脳・神経細胞の維持育成機構を理解し、破壊する原因を探索することで、認知症治療薬の重要性を学ぶ。	金曜日5校時	薬理学教室セミナー室	出席状況、発表内容等を考慮して評価する。	10名
8	第二生理	2年次前期3年次前期	心の個人差の脳科学	篠原 一之	英語論文、原書輪読を通して、心の個人差を生み出す脳科学的基盤の重要性について理解を深めるとともに、英文読解・プレゼンテーション能力を養う。	近年、性格をはじめとした心の個人差と、脳機能・形態、遺伝子多型、内分泌機能との関わりが明らかになりつつある。そこで、これら心の個人差の生物学的基盤に関する最新の研究論文を読み、その内容に関するプレゼンと議論を行う。また、心の科学で用いられる脳機能計測・行動計測技術に関する実習を行なう。これらの活動を通して、心の科学に関する理解を深めるとともに、臨床・研究活動に必須の英文読解・プレゼン能力を身につける。	金曜日1校時	医学科基礎研究等1Fセミナー室	出席、レポート、発表資料を総合的に評価する。	10名
9	第3解剖	2年次前期3年次前期	様々な細胞死とその分子機構と病態	小路 武彦	細胞死には様々なタイプが存在し、その異常は生体の生存を脅かすとともに細胞死の制御は創薬の標的ともなりうる。そこで細胞死についての総説を読み、研究の歴史から最新の知見までを俯瞰するとともに、最新の研究論文から疾病との関わり、その治療への応用の可能性を議論することを目的とする。	細胞死についての基礎的知識、研究の歴史について総説から学習した後に最先端研究の英語の原著論文を読みその内容を発表する。原著論文を読むことにより医学的課題に対する科学的なアプローチ法の一つを学ぶとともに、科学英語の読解能力、プレゼンテーション能力を養う。	金曜日1校時	医学科基礎研究棟2F 小会議室	講演内容と議論への参加態度並びに出席にて判定	10名
10	泌尿器科	2年次前期3年次前期4年次前期	マンガで学ぶ“泌尿器科ってなんだ?”	井川 肇	本ゼミを泌尿器科学入門と位置づけ、マンガという身近な教材を用いて泌尿器科学の受け持つ領域と特徴を知り、さらに発展させて現代医学の基本部分の理解にもつなげていく。	泌尿生殖器の解剖、機能および疾患の特徴などを直観的に捉えられるように、主にマンガやビデオ等のメディアを用いて、学生自身が司会進行する形で講義を行う。これに適宜教官からの補足をを行う。また、プレゼンテーションスキルなどの簡単なトレーニングも行いながら進めていく。	金曜日1校時	泌尿器科医局	討論への参加態度、発表、レポートなど	10名
11	消化器内科	2年次後期3年次前期4年次前期4年次後期	慢性肝疾患の症状とデータ異常はなぜ起こるのか?	市川 辰樹	慢性肝疾患の臨床症状、合併症と検査値異常を基礎から理解する	電子カルテを用い、臨床症例を提示し、それらの問題点を1例ずつ解決していく	水曜日午後5時から	消化器内科医局	各回における議論への参加度	前期6名後期8名

番号	講座名	対象学年・開講時期	ゼミテーマ	責任者	目的・方針	内容	開講時間	場所	評価方法	受講可能人数
12	産婦人科	2年次前期 2年次後期 3年次前期 4年次前期 4年次後期	女性医療の最前線	増崎 英明	産婦人科学は主に周産期、婦人科腫瘍、生殖内分泌および女性のヘルスケアの領域からなります。つまり、女性の一生をみる学問です。 そこで、産婦人科が開講する医学ゼミでは、妊娠・出産、癌治療、あるいは月経異常など様々な領域に関する話題を取り上げ、活発な討議を通じて産婦人科の最前線について見識を深めてもらいます。	産婦人科領域のトピックスを取り上げたプログラムを企画しています。参加者は学生のほか、産婦人科医師、小児科医師、研修医、助産師が参加しています。周辺地域の関連病院の勤務医および開業医も参加し、まず、周辺地域の開業医から大病院あるいは長崎市民病院に搬送された症例を取り上げて、管理・治療における問題点や産科救急について討議します。各週の担当講師が質疑応答を受けながらトピックスについて解説していきます。 ついで、各週の担当講師が質疑応答を受けながら産婦人科に関連するガイドラインや、トピックスについて解説していきます。また、月に1~2回、産婦人科に関連した最新情報について、その分野の第一人者を外部講師としてお招きしてセミナーを開催します。したがって、討議には積極的に参加してください。	火曜日 18:30-21:00 (軽食有り)	産婦人科医局 (第一臨床研究棟) (但し、産婦人科セミナーは良順会館もしくはポンベ会館で行う場合もあります。)	出席、討議への参加態度、レポート	10名
13	公衆衛生	2年次前期 3年次前期 4年次前期	論文から学ぶ公衆衛生学	青柳 潔	文献を通して医学の社会性について学ぶ	公衆衛生学に関連した論文を各自が紹介・発表し、討論する。	金曜日1校時	公衆衛生学資料室	積極性、レポート	10名
14	感染分子解析学	2年次前期 2年次後期 3年次前期 4年次前期 4年次後期	感染症PBL	西田 教行	英文で書かれた感染症の症例報告の読解力を高め、かつProblem based learning の方法を学び総合学習能力を高める。	主にNEJM Case reportから感染症の症例を取り上げて、英文読解を行うとともに、各自自己学習目標を設定し、調べて来たことを発表しながら、グループ学習を行う(3症例程度)。	金曜日1校時	感染分子解析学 集會室(基礎8階)	出席、レポート、発表資料を総合的に評価する。	6~8名
15	免疫機能制御学	2年次前期 3年次前期 4年次前期	論文から学ぶ免疫学	由井 克之	重要な原著論文に触れることにより、免疫学の方法論とその根底にあるアイデアに対する理解を深め、問題解決能力を滋養する。「免疫学」の授業を履修した4年生を主な対象とするが、意欲ある2年生も歓迎する。	免疫学関連の主要な論文(英文)の抄読会を行う。学生があらかじめ自学した論文の内容を紹介し、それについて全員で議論し、理解を深める。論文の選択、読み方などは適宜指導する。	金曜日1校時	医動物学教室 集會室	発表内容、レポート、討論への参加度、出席	10名
16	整形外科	2年次前期 2年次後期 4年次前期	整形外科入門	尾崎 誠	整形外科の専門知識や手術手技に触れる	実際の整形外科診療について楽しく学ぶ。外傷学: 救急外傷の初期対応、骨折手術実習。人工関節: 実際の人工関節インプラントに触れながらの講義、実習。スポーツ医学: 日本体育協会スポーツドクターによる講義。 その他、骨軟部腫瘍外科、リウマチ外科、肩・膝関節鏡手術に関する講義と実習	金曜日1校時 (講師によって早く開始し早を終了する場合あり)	病院12階整形外科医局リフレッシュルーム	出席など	6名
17	論文から学ぶ生化学	2年次前期 2年次後期 3年次前期 4年次前期 4年次後期	論文から学ぶ生化学	伊藤 敬	学習意欲のある2年生を対象にした生化学への入門科目である。生化学に関連する論文を読み、英語力を養うとともに生化学的な研究を理解し発表する力を養う。	教官が毎回最近の生化学に関する論文を紹介しその内容を理解し質疑応答をする。加えて当番になった学生は、あらかじめ自学した論文を紹介しその内容について全員で議論し、理解を深める。	日曜日午前10時	医学部基礎棟6階生化学教室カンファレンス室	出席、発表内容など	3名
18	精神科神経科	2年次前期 2年次後期 3年次前期 4年次前期 4年次後期	映画から見る精神医学	小澤 寛樹	具体的にイメージしにくい精神医学の様々な現象、症状、問題に関して映画・テレビなどの映像表現を通じて、人の心に対する理解を深め、自己の考え・感情を論理的・能動的に議論することを目的とする。	精神医学の様々な現象、症状、問題に関して映画・テレビなどの映像表現を通じて、人の心に対する理解を深め、自己の考え・感情を論理的・能動的に議論する	4・5時間目(水曜日17:00以降) (日程は講義初日に学生と協議のうえ決定) *5校時目以降に他の科目を受講する方はご留意ください。	長崎大学病院精神神経科カンファスルーム(予定)	レポート50%、及びディスカッションへの参加状況50%	10名
19	先端医学教育支援センター	2年次後期 3年次前期 4年次前期 4年次後期	スポーツ医学概論	安武 亨	スポーツを通じて医学を学ぶ	運動生理学、スポーツ栄養学、スポーツ外傷学、トレーニング法など	火曜日または水曜日の5校時	ゼミ室、視聴覚室など	レポート等	11名
20	医療情報学	2年次後期 4年次後期	医療経営とマネジメント	松本 武浩	医学教育では、年々多岐に渡る知識が必要とされ追加されているが、医療を取り巻く環境も年々変化しており、その結果生まれた医療過誤や医療の質そして健全経営に関する知識も良質な医療を提供する上で重要視されている。しかしながら医療経営や病院マネジメントに関する教育は通常のカリキュラムに含まれていない。 一方このような分野に興味を持つ医学生も少なからず増えつつありそのニーズに応えるためにも医療経営と病院マネジメントに関する医学ゼミを企画した。	我が国では、現在、戦後最悪の円高、デフレ不況、低雇用率を経験し、「失われた20年」と呼ばれている。その間、高齢化は進み、社会保障費は毎年増加し、今や、日本もギリシャやスペイン、ポルトガル同様、国家財政破綻の危機すら指摘されている。このため政府は医療費削減に力を注いできたが、その結果、様々な地域で医師不足と医師の疲弊を惹起し、地域医療は崩壊の危機にある。このような社会情勢そして医療を取り巻く環境を知らずして良質の医療の提供は困難である。 一方、これまでの医師中心の医療から看護師、薬剤師をはじめ多くの医療にかかわる専門職とのチーム医療が重要視されるようになってきた。さらには、自院での病院完結型医療から地域の他の専門病院、診療所との連携が重視され、在宅医療までを含めた地域完結型医療への展開が求められており、確実に医療スタイルは新たなinnovationを遂げようとしている。このような現状を一つ一つ解説し、理解を深め21世紀の医療をともに考えていく貴重な議論と知識集積の場としたい。 <具体的な内容> 医療経営・病院マネジメント概要、医療連携、DPC概論、医療安全、個人情報保護、医療の質向上への取り組み1(診療録管理、EBM)、医療の質向上への取り組み2(電子カルテと地域医療ICT連携、クリティカルパス)、物流システムとSPD、看護概論、在宅医療、組織横断的な質向上の取り組み(感染管理、NST、緩和ケア、褥瘡管理、嚥下管理、呼吸器ケア、ME機器管理)	水曜日17:30-19:10	第3講義室	レポート、プレゼンテーション	15名

番号	講座名	対象学年・開講時期	ゼミテーマ	責任者	目的・方針	内容	開講時間	場所	評価方法	受講可能人数
21	生化学	1～6年後期	国際医療英語 (定員20名、AO入試国際枠学生を優先する。)	伊藤 敬 西原俊明 小笠原 真司	国際的な場における医療現場で活躍できる英語力を養う。医療現場に必要な語句の理解を深めるとともに医療に関わるトピックを精選し、その理解を深める。題材に関しては、医療関連の雑誌や新聞記事から精選し、速読を意図した授業を行う。また、日本語と英語の表現方法の違いを学習する。特に学生が犯しやすい誤りとして、文法的な誤りの他、コロケーション(連語)の間違いや日英発想の違いによる誤り等も視野に入れて講義を行う。この授業を通して、英語の論の展開の仕方、さらには、英語を母語とする話者の直感に触れることで、英語の知識を深めていただきたい。	授業では、演習的要素も取り入れ、リスニング、及び、スピーキングスキルの訓練を行う。また、医学に関わる英文記事を読み、短時間にまとめて英語で発表する訓練を併せて行う。	火曜日5校時	第1講義室	テストと課題、授業中のアクティビティ、出席、プレゼンテーション等を総合的に評価する。テスト(70%)、課題・プレゼンテーション(20%)、授業への積極的参加(10%)	
22	先端医学支援センター	以下参照	臨床カンファランス	桑原 宏永 和夫 松本 恵 山之内 孝彰 安武 亨 分部 哲秋	臨床カンファランスへの出席という形で臨床に触れ、学年に応じた自分の学習に生かす	診療科で実施されているカンファランスに出席する。そこで得たものを元に、自己学習を加えて、レポートを作成する。5回のカンファランスに出席し、5つのレポートを作成する。	別に示す診療科のカンファランスより1つ選択する。基本的には同一科のカンファランスに5回出席するものとする。	下記の通り	出席態度およびレポート内容(参加したカンファランスの科にかかわらず、レポートは医育支援センターに提出する。)	
【先端医学支援センター】	第1内科	2年後期	臨床抄読会	桑原 宏永		神経内科・リウマチ膠原病内科・内分泌代謝内科に関連した臨床論文2編を紹介。現在入院中の症例に関する最新知見を共有する。	毎週金曜日7時45分から	12階カンファランス室	出席態度およびレポート内容	1名
	第1外科	2年後期	術前・術後カンファランス	松本 恵	術前、術後カンファランスで実際の手術症例を通して手術適応や術式決定に至る経緯を学ぶことで今後の自分の学習に活かす。	予定手術および術後症例の提示と検討	毎週木曜日18時から	第1外科(腫瘍外科)医局(11階)	出席態度およびレポート内容	2名
	第2外科	2年後期	M & Mカンファランス	山之内 孝彰		各診療班が問題症例などを提示し、反省点などを検討し、今後の診療に生かす	毎週土曜日8時30分から	第2外科医局	出席態度およびレポート内容	2名

国際医療英語

責任者	氏名	伊藤 敬	内線	7037
	教室	生化学	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午後1時～午後5時		

対象年次・学期	1～6年 前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	選択	単位数	前期1単位、後期1単位
英語名	English for Medicine		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

国際的な場における医療現場で活躍できる英語力を養う。医療現場に必要な語句の理解を深めるとともに医療に関わるトピックを精選し、その理解を深める。題材に関しては、医療関連の新聞記事から精選し、速読と精読のバランスを意識した授業を行う。

今年は、特に英語力の養成に焦点をあて、TOEIC 700前後の力を最低つけることを目標とする。特にTOEICにおけるリスニングセクションの対策を視野に入れて授業を行なう。また、医学に関する基本的な英語表現や語彙を身につけてもらう。

2. 授業内容（講義・実習項目）

授業では、演習的要素を取り入れ、日本語を英語らしい表現で書けたり言えたりできるように訓練する。また、リスニングの訓練も併せて行う。リスニングに関しては、TOEIC形式の問題にたくさん挑戦してもらう。リーディングに関しては、日本語訳にするよりも、英語を直接理解し、速読の訓練を行う。

3. 教科書、参考書等

前期の小笠原の授業で使用するテキストは、以下の2冊です。

1. *The Picture of Health* (南雲堂 1700円)

2. *メディカル英語小事典* (第2版) (英光社 1100円)

テキストは、1回目の授業の時に、講師が持参するので、その場で購入してもらいます。1回目から、上の2冊のテキストを利用して、授業を始めます。なお、*メディカル英語小事典*を昨年購入した方は、購入の必要はありません。昨年購入した*メディカル英語小事典*を授業にご持参ください。

4. 成績評価の方法・基準

定期試験70%、小テスト15%、授業時の発表等15%で、総合的に評価します。合格ラインは、定期試験、小テスト、授業時の発表の総合評価で、60点以上です。

5. 教員名

学内非常勤 : 小笠原 真司 (大学教育機能開発センター)

6. 備考（準備学習等）

定員20名、A0入試国際枠学生を優先する。

予習は、講師指定の読み物を精読してきてください。また、医学英単語も毎週、予習で指定したものを覚えてきてもらいます。

TOEIC 750点を目指す学生が受講してください。

出席が悪い学生は、お断りです。遅刻もお断りです。

授業計画は「1年次」参照。

国際医療英語

責任者	氏名	伊藤 敬	内線	7037
	教室	生化学	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午後1時～午後5時		

対象年次・学期	1～6年 後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	選択	単位数	前期1単位、後期1単位
英語名	English for Medicine		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

国際的な場における医療現場で活躍できる英語力を養う。医療現場に必要な語句の理解を深めるとともに医療に関わるトピックを精選し、その理解を深める。題材に関しては、医療関連の雑誌や新聞記事から精選し、速読を意識した授業を行う。また、日本語と英語の表現方法の違いを学習する。特に学生が犯しやすい誤りとして、文法的な誤りの他、コロケーション(連語)の間違いや日英発想の違いによる誤り等も視野に入れて講義を行う。

この授業を通して、英語の論の展開の仕方、さらには、英語を母語とする話者の直感に触れることで、英語の知識を深めていただきたい。

2. 授業内容(講義・実習項目)

授業では、演習的要素も取り入れ、リスニング、及び、スピーキングスキルの訓練を行う。また、医学に関わる英文記事を読み、短時間にまとめて英語で発表する訓練を併せて行う。

3. 教科書、参考書等

いろいろなジャーナルの論文を選ぶ予定である。その他、適宜、指示する。
プリント教材とテキストを利用する。

4. 成績評価の方法・基準

テストと課題、授業中のアクティビティ、出席、プレゼンテーション等を総合的に評価する。
テスト(70%)、課題・プレゼンテーション(20%)、授業への積極的参加(10%)

5. 教員名

非常勤 : 西原 俊明 (大学教育機能開発センター)

6. 備考(準備学習等)

定員20名、A0入試国際枠学生を優先する。

積極的に、そして真面目に授業に出ること。演習形式なので、出席を重視する。

授業計画は「1年次」参照。

Academic Connections 2 - second year students

Instructors: Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp
jbriganti@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be decided

Course Objectives	
<p>This is a continuation of last year's English for academia. The course aims to create a cooperative and collaborative learning environment structured around small discussion groups in which participants will fulfill different roles. Students will develop their language and critical thinking skills through group discussion, negotiation, and collaborative problem solving. By the end of the course, students should be able to negotiate their way through discussing and presenting medical topics in English. Students will play an active role in choosing topics from the course curriculum for in-class study.</p>	
Required Textbooks	
<ul style="list-style-type: none"> • Academic Connections 1, Betsy Cassriel and Marit Ter Mate Martinsen - Pearson-Longman • Human Biology, Sylvia Mader and Michael Windelspecht - Mc Graw-Hill (11th edition) 	
Topics	
1	Introduction of the course, on-line tasks, deciding on the groups
2	First group meeting: establishing group roles, deciding on first topic, deciding on topic focus, written or spoken
3	CALL center - Vocabulary test ; English Central; setting up on-line communication channels
4	Discussion circles - study plan - division of research/report tasks
5	Discussion circles - topic's vocabulary, grammar points, organization, ... / report progress check
6	Putting the group report together - creating a rubric to evaluate the work
7	Presenting the group reports
8	CALL center - listening, reviewing group reports
9	Deciding on second topic, group roles and on topic focus, written or spoken
10	Discussion circles - study plan - division of research tasks
11	Discussion circles - topic's vocabulary, grammar points, organization, ..., how to present
12	Planning the reports - creating a rubric to evaluate a presentation
13	Report delivery practice in group. Critiquing each other's work. Q&A practice.
14	Presenting individual reports - Q&A session
15	Final self and group evaluation - What did we learn? Where do we go next?
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated on the basis of classwork, reading and writing responses, a group presentation and a final group report.</p>	

TOEIC workshop

instructors: Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time: to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp //
jbriganti@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be decided

Course Objectives	
<p>The TOEIC workshops involve practical hands-on TOEIC practice and tactics to improve your TOEIC score. This is a not-for-credit course. However, for those whose most recent TOEIC score falls below a pre-determined score*, the course is a pre-requisite to take the following semester's for-credit course .</p> <p>Understanding how the TOEIC is organized, what strategies are successful, and practicing key tactics will ensure that you can reach the TOEIC goal set by the university.</p>	
Book	
<p>Tactics for TOEIC – Listening and Reading, Grant Trew, Oxford University Press Word Engine - an online vocabulary practice tool; details at first meeting</p>	
Topics	
1	Introduction to the class / Introduction to the TOEIC/Word Engine Vocabulary Check (this class will be held at the CALL center)
2	Part 5 Part 1 - Listening Practice
3	Part 2 mini-practice part 5
	Part 6 Part 2 - Listening Practice
5	Part 3 mini-practice part 6
6	Part 7 Part 2 - Listening Practice
7	Part 4 mini-practice part 7
8	Strategy review + Practice test - 2.5 hours
9	Part 5 Part 1 - Listening Practice
10	Part 2 mini-practice part 5
11	Part 6 Part 2 - Listening Practice
12	Part 3 mini-practice part 6
13	Part 7 Part 2 - Listening Practice
14	Part 4 mini-practice part 7
15	Final Practice Test - 2 hours
16	Reflections + Further Study
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated based on attendance, homework assignment completion, and class participation.</p>	

Minimum required TOEIC scores for TOEIC workshop exemption:

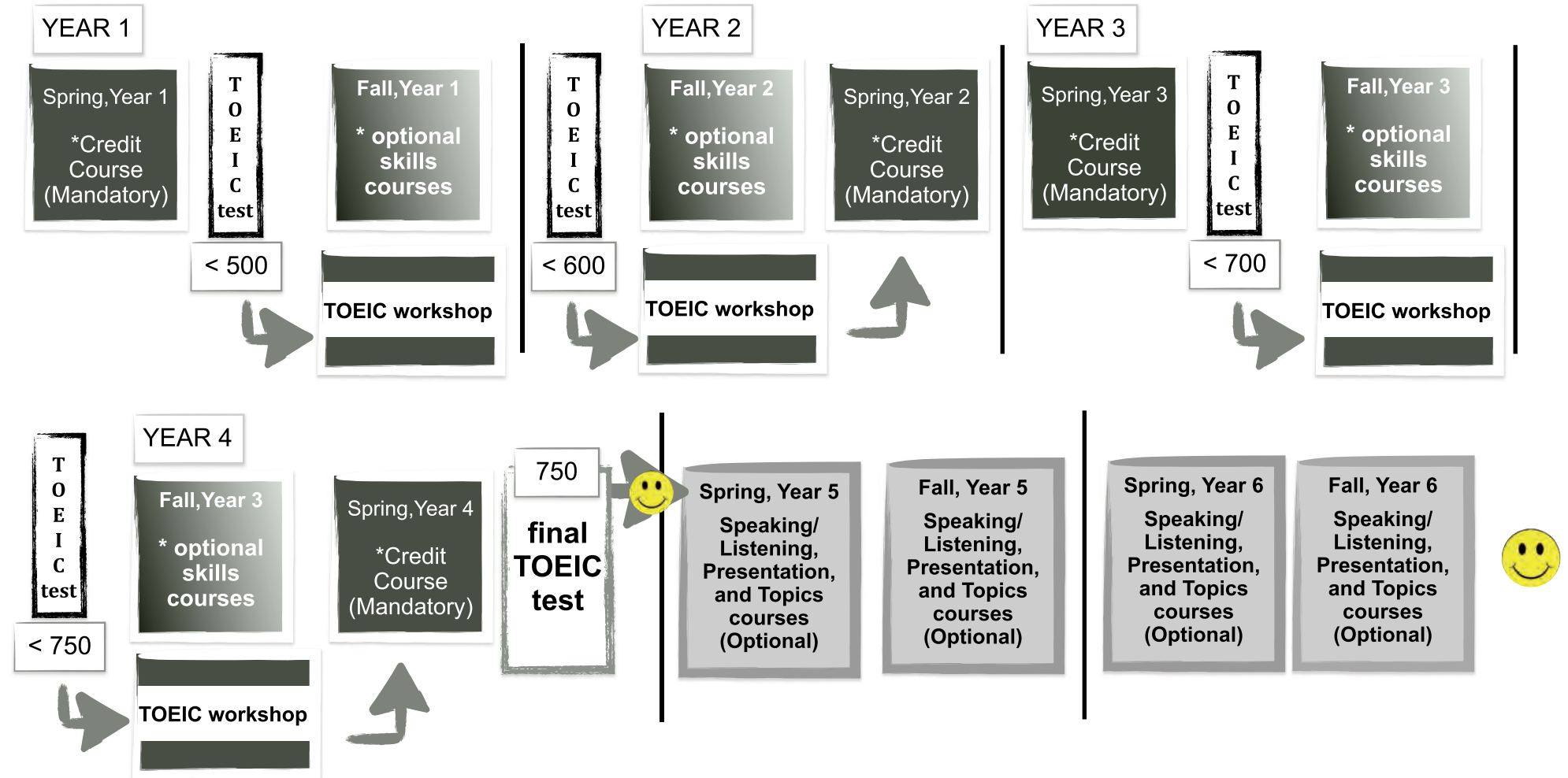
- By the end of the first semester of the first year - 500 points
- By the beginning of the second semester of the second year - 600 points
- By the end of the first semester of the third year - 700 points
- By the beginning of the first semester of the fourth year - 750 points

TOEIC

- 注意 -

TOEICワークショップ参加必須について (スコア500点以下の学生対象)

後期の単位に係るTOEICコース (スコア500点以下の学生対象) は、ワークショップに参加し、合格と認められた学生のみ受講が許可されますので、500点以下の得点者は、必ず参加しパスマークを取得してください。



English Communication in a Medical Context

instructors: Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time: to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp
jbriganti@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be decided

Course Objectives		
<p>This course will focus on improving your professional English language communication ability through comprehensive instruction in all four skill areas; speaking, listening, reading, and writing. Topics covered in the course will focus on English communication in a medical context. Students will play an active role in choosing topics to explore for in-class study based on what they determine to be the most beneficial for their English improvement.</p>		
Book		
<p><u>Textbook/class materials:</u> (to be decided in class) Internet access</p>		
Class Outline		
1	Introduction to the course	<p>Students will decide in groups what topics they want to focus on. They will study and practice these topics in a collaborative and cooperative environment, and present and teach what they learned to other groups. Students will develop their own rubrics to evaluate their work and the work of their peers.</p> <p>Some suggestions for topics: Introducing yourself in a medical context, English for the patient interview, the language of pain, Vaccines, Selective Attention, Presenting research , Common Complaints, Accidents and Injuries, Physical Examinations, Medication, Medical History, Life Style and Diet, ...</p>
2	Assigning of groups/ first topic selection	
3	Group discussion topic 1	
4	Presentation practice 1	
5	Presentation topic 1	
6	Group discussion topic 2	
7	Presentation practice 2	
8	Presentation topic 2	
9	Group discussion topic 3	
10	Presentation practice 3	
11	Presentation topic 3	
12	Group discussion topic 4	
13	Presentation practice 4	
14	Presentation topic 4	
15	Final Presentation + reflection on the course	
Course work and Evaluation		
<p>Students will be evaluated on the basis of individual classwork, group work, speaking and listening skills development, and a final presentation (final exam).</p>		

Diagnosis - Discussion of N.Y. Times Medical Articles in English

instructors Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp
jbriganti@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be decided

Course Objectives	
<p>In this course, we will explore a series of articles from Diagnosis, a monthly column from New York Times Magazine written by Lisa Sanders, the consulting MD on the popular TV series “Dr House”.</p> <p>This course aims to create a cooperative and collaborative learning environment that allows for a free exchange of ideas and opinion. Students will develop their communication and critical thinking skills in English through group discussion, role negotiation, collaborative problem solving, and presenting. By the end of the course, students should be comfortable discussing and presenting medical topics in English.</p>	
Book	
<p>All materials will be available online.</p>	
Topics	
1	Introduction of the course and on-line tasks – self-introductions + how to write email (communicating with your instructor) - Power intro
2	Introduction of the groups. Division of the group roles. Students input on the readings. First reading: Coulhan, Medical Metaphors. Students choose the first article .
3	Discussion groups + Introduction of the rubric for evaluating presentations.
4	discussion: how to present + trial run of rubrics + choosing the second article
5	Discussion groups: second article
6	Negotiating division of presentation tasks + preparing for presentation
7	Practice presentations in group + fine tune the rubric
8	PRESENTATIONS - group presentations - poster presentations
9	Discussion of presentations + deciding on third article and fourth article
10	Discussion groups: third article - negotiating division of presentation tasks + preparing for presentation
11	Discussion groups: fourth article - negotiating division of presentation tasks + preparing for presentation
12	Practice presentations in group + fine tune the rubric
13	Simultaneous practice presentations for the class
14	Individual Presentations
15	Course reflections. - Self-evaluation.
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated on the basis of classwork, reading and writing responses, a group presentation and a final group report.</p>	